

## 鹿児島大学病院の施設紹介

鹿児島大学病院 西郷康正

### 1. 施設紹介

鹿児島大学病院の歴史は古く、前身は明治2年3月に島津藩医学校と病院設立に始まります。同年12月に医学校長兼病院長に英国人医師ウイリアム・ウイリスが就任し、本州最南端の地から日本の近代医学・医療の礎を築られました。明治13年6月に県立鹿児島医学校及び附属病院が設立され、昭和17年12月に県立鹿児島医学専門学校が設置認可されました。昭和18年1月に病院は、県立鹿児島医学専門学校の設立により同専門学校の附属病院と改称して鹿児島大学病院の歴史が始まっています。昭和22年6月に県立鹿児島医科大学が設置認可され、昭和24年2月に県立鹿児島大学の設置により県立医専及び県立医大は同大学に統合されました。同年4月に病院は県立鹿児島大学医学部附属病院として発足しました。昭和30年7月に鹿児島県立大学医学部は国立移管され、病院は昭和33年5月国立移管され、鹿児島大学医学部附属病院と改称されました。その後、昭和49年9月に鹿児島市山下町（現在の城山町）から宇宿町（現在の桜ヶ丘）に移転しました。



桜島と病院の全景



建物の配置

現在の桜ヶ丘に移って46年になります。最近の診療状況（外来人数、入院人数等）は、平成30年2月から病床数は666床、令和3年度の年間延べ外来患者数は385,094人、年間延べ入院患者数196,369人、入院患者の平均在院日数は12.1日です。病床稼働率90%台を維持しながら効率的な診療を続けています。

本院は、鹿児島県の難治性疾患の最後の砦として対応していく必要があり、そのためには質の高い医療や先進的医療を行い、地域医療の充実に努めているところです。また、鹿児島県は離島およびへき地が多く、離島・へき地医療教育にも力を入れています。

### 2. 組織・人員管理体制

当院は、平成13年12月に医学部附属病院と歯学部附属病院の統合を目指して、新構想病院設置推進委員会が設置されました。この委員会は、外来・病棟診療部門専門部会、中央

診療部門専門部会、医療情報部門専門部会、薬剤部門専門部会、看護部門専門部会、事務部門専門部会で構成され、統合のメリット・デメリットが討論され、この中央診療部門専門部会において技術職員の一元化統合を提案し意見が採用されて具体的な検討が開始され、平成16年4月に大学病院の診療支援部として「臨床技術部」が発足しました。放射線部門（診療放射線技師）、臨床検査部門（臨床検査技師）、リハビリテーション部門（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、臨床工学部門（臨床工学技士）、歯科部門（歯科衛生士、歯科技工士）の5部門8職種からなり180名を超える組織になりました。年間の行事として入職時のガイダンス、親睦会、部門発表会、各種研修会等を行っています。毎年2回の部門発表会は、各部門20分ずつ3部門の発表にして、十分な説明と質疑応答の時間をとっています。また、年1回の親睦会、臨床技術部運営会議を、月1回行っています。その他、部門の責任者会議を、毎週火曜の午後から1時間程度行い、病院運営会議の報告や議題に上がった問題について話し合っています。



研修会



親睦会

### 3. 基本方針・基本理念

本院の理念は、「心豊かな医療人による安心・安全・高度な医療を目指す。」であり、基本方針は、「患者さんの権利を尊重した納得のいく治療の実践、高度・先進的医療の充実による地域中核的医療機関としての貢献、人間性豊かな使命感にあふれる医療人の育成、医療を通じた国際貢献の推進、安全で効率の高い病院運営体制の確立」を掲げている施設です。

### 4. 新人教育と若手人材育成

最近では、どこのご施設でも年度ごとに計画目標を立て、技術職員の質と信頼関係向上を目指し、認定資格取得支援を行い人材育成に取り組まれており当院も同様です。また、社会人大学院（修士/博士課程）進学を促し、スキルアップと研究における資質の向上も図っているところです。その効果もあり磁気共鳴専門技術者、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、IVR 認定技師、救急撮影認定技師などの各種専門資格取得者が増え、修士/博士の社会人コース修了による学位取得者も増えました。最近では、修士課程修了後の入職もある

状況です。教育の環境が変わったことで未来を担う放射線部職員が他職種と連携し、更に信頼関係が築けるような運営に努めているところです。

当院は、病院再開発の真っただ中です。第2期工事として平成30年2月に放射線部門も、旧診療棟から新棟に移転しました。放射線部が位置する建物の検査室配置の特徴は、読影室を中心に置き検査室との医師動線を短くしました。患者動線は、CT/MRI検査室の受付を1か所にして、看護師による問診/血管確保後にCT検査室及びMRI検査室前の長椅子で検査を待つようにしました。技師動線は、ブロックごとに操作室が見通せるようにして、職員相互に協力しながら業務が行えるような造りにしました。B1階が核医学検査室と放射線治療室、1階が、CT検査室、MRI検査室、一般撮影検査室、透視検査室、3階にRI病室、4階が血管造影室です。血管造影室の配置は、手術室と近い関係を優先したため4階になりました。全体的には1つの建物に放射線部門を配置できたことにより業務の効率化を図ることが出来ているように思えます。

放射線情報ネットワークの更新により、患者確認システム等の機能を加え、医療安全上、システムの患者確認を行いながら診療を行うことができるようになりました。

現在、3期工事目に入り、旧診療棟を取り壊し、外来診療棟と病棟建設に向けて施設管理課は大忙しです。

## 5. 施設のアピールポイント

医療安全に関する“患者急変時シミュレーション”を他職種と連携して開催しています。医師/看護師/診療放射線技師が参加して部署ごとに行っています。放射線治療においては、治療中の患者が呼吸苦を訴えナースコールで呼び出す場面にはじまり、装置トラブルを加えたシナリオに基づいて行い。CT/MRIでは、検査時の造影剤副作用時の対応を行っています。また、臨床技術部という組織を活かした横断的な研修会として、リハ部門の理学療法士の方をお願いし



て、一般撮影部門における“患者トランスファー研修”も行っています。車椅子から撮影台、ストレッチャーから撮影台への移乗は場面に応じた危険予測を行い、移乗方法や介助人数を考慮し、リスク管理をしながら安全に検査を進めることを指導して貰っています。

最後に、鹿児島県の観光スポットは、温泉地の指宿/霧島、船で屋久島/種子島まで渡れば縄文杉や宮之浦岳など南九州の魅力あふれる鹿児島を満喫できます。おすすめのグルメスポットも盛りだくさんです。ぜひ鹿児島大学病院の研修を兼ねていらしてください。